

国語

1 教科の特徴

- ①漢字や語句・言葉の知識を豊かにし、自分の力で文章や会話の内容を理解できるようにします。
- ②考える力、感動する力を養い、心が広くて豊かな人になることができます。
- ③自分の考えや感じたことを、人に正しく伝えたり表現することができるようになります。

2 学習の進め方

- ①答えは一つとは限りません。
 - ・積極的に発表しましょう。先生の話をしっかり聞き、友達の発表に耳を傾けましょう。いろいろな意見を知ることにより自分の考えが深まります。
- ②ノートは自分の学習活動の成果。
 - ・黒板を写すのは当然です。先生の話や自分の考え、友達の発言など大切だと思うことをメモして、「あとで役立つノート」を作りましょう。
 - ・答えを覚えるのではなく、考えたことを書く習慣をつけましょう。
 - ・わからない言葉はどんどん辞書を引いて確かめましょう。

3 授業で用意するもの

教科書（「伝え合う言葉」「書写」）、ノート（縦書き用ノート）、国語ワーク、文法ワーク、漢字ワーク、便覧、ファイル、国語辞典（電子辞書ではない）、習字道具、

4 家庭学習の方法

- 予習・・・教科書を読みましょう。内容を読み取るときは黙読で、読み方を確かめるときは音読で。
- 復習・・・教科書を音読し、ノートを見て授業を振り返りましょう。宿題をきちんとやりましょう。
- ワーク・・・予習、復習のために、上手に使いこなしましょう。
書き込みOK。定期テストに備え、何回か繰り返し取り組めるとよいでしょう。
- その他・・・新聞、雑誌、本などいろいろなジャンルのものを楽しみながら読みましょう。
数多くの言葉を知ることは深く考えることに役立ち、読解力がつきます。

5 評価の方法

観 点	評 価 の 規 準	方 法
関心・意欲・態度	国語に対する関心を深め、国語を尊重し、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	・各観点に応じ、定期テスト・小テスト・プリント・ノート・発表・提出物・授業態度などを総合的に評価します。
話す・聞く能力	自分の考えを豊かにしたり、深めたりして、目的に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取る。	
書く能力	伝えたい事実や事柄、課題および自分の考えや気持ちを明確にする。	
読む能力	目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんだりする。	・学期末に5段階評定を通知します。
言語に関する知識・理解・技能	表現と理解に役立てるための音声・語句・文法・漢字、字を整えて書く書写などについて理解し、知識を身につけている。	

社 会

1、教科の特徴

社会科は3つの分野から構成されています。地理では、現在の国土や世界の様子を学び、歴史では、過去から現在までの人類が歩んできたことを学び、公民は、現在の社会の動きやしぐみを学び、3分野の学習を合わせて、日本国民の一人としての自覚を持ち、よりよい社会をつくるための能力を育てていく教科です。

そのために、さまざまな社会的なことについて資料を集め、多面的・多角的に思考し、自分なりに問題を解決し、考えを人に伝える能力を身につけることが大切です。

2、授業の進め方

1, 2年生では、地理的分野と歴史的分野を並行して学習していきます。単元ごとに分野を交代しながら学習していきます。3年生では、公民的分野を学習していきます。

授業では、先生の話をよく聞き、指示された課題にまじめに取り組み、自分の意見や考えを積極的に発表しましょう。また、新聞やニュース、教養番組、読書なども知識を高め、社会科に必要な思考力、表現力を高めることにつながります。

3、授業で用意するも

- ・教科書 ・ノート ・資料集の3点セット 地理の場合は地図帳と白地図を加えた5点セットになります。
- ・鉛筆(シャープペンシル)の他、赤色のペン、色鉛筆(小学校で使用したもの可)もあるといいですね。
- ・ワークなどは先生の指示に従って準備しましょう。

4、家庭学習の方法

予習をする余裕のある人は、教科書を読んでおくといいでしょう。

復習はその日に行うことが望ましいが、少なくとも週に1回1週間で学習した内容を行いましょう。

家庭学習の方法は、次の通りに行うと良いと思います。

- ①ノートをよく見直す。
- ②学習した内容を整理する。
- ③興味や疑問があれば、自分で調べ、ノートにまとめる。
- ④暗記ものは、カードに記入し、繰り返しの学習も有効です。
- ⑤ある程度学習内容が頭に入ったらワークで問題を解いてみる。
- ⑥テスト前にノートを見直し、ワークもやり直してみる。これで試験対策はばっちりです。

5、評価の方法

定期テストや小テスト、授業での取り組み、ワークやレポート、学習ノートの提出や取り組みなどを総合的に評価して、各観点別の評価や総合的な評定を出します。



数 学

1. 教科の特徴

数学は、物を数えたり測ったりすることに始まる、数量・図形などに関する学問です。今日の、私たちの生活や科学技術の発展に役立ってきた、身近な物の見方や考え方をレベルアップしていく基礎となるものです。ですから、物事を筋道立てて考えたり、手際よく処理したりすることの大切さを学習していきます。

2. 学習の進め方

- ・ 毎回の授業のねらいを把握して、集中して取り組もう。
- ・ 授業に必要な持ち物を忘れることがないようにしよう。
- ・ 先生や友達の説明をよく聞き、積極的に自分の考えを発表しよう。
- ・ ノートをしっかりとろう。
- ・ わからないところは、その日のうちに解決しよう。

《ポイント》

【途中の式を大切にしよう】

間違えたところは答えだけではなく、途中の式も訂正しよう。

【答えを出すまでの考え方を大切にしよう】

答えを予想して、筋道を立てて表現する。そして、人の考え方と比較しよう。

3. 授業で用意するもの

- ・ 教科書 ・ ノート ・ ワーク ・ 三角定規 ・ コンパス ・ 分度器

4. 家庭学習の方法

毎日継続して数学の問題に取り組むことが大切です。そのため、宿題は必ず行うようにしましょう。また、教科書やワークの問題でわからなかった問題を、その日のうちに復習しましょう。その際に途中計算も書いていくことが重要です。

5. 評価の方法

普段の授業への取り組みや定期試験、小テスト、宿題、ノート、ワークなどを総合的に判断します。具体的には以下の4つの観点を設定して、それぞれについて評価の目安を定めて、それに基づいて評価をします。

《数学への関心・意欲・態度》

- ・ 数学に関心を持ち、課題への取り組みが意欲的であるか。

《数学的な見方・考え方》

- ・ 数学的な見方や考え方ができ、そのよさを理解しているか。

《数学的な技能》

- ・ 数や式の計算、方程式、表、グラフ、作図、証明などが正しく扱えるか。

《数量、図形などについての知識・理解》

- ・ 数量や図形の基礎知識があり、記号、用語、公式、性質など

理科

1、教科の特徴

「どうしてだろう?」「なぜだろう?」・・・理科の学習は、ここから始まります。

「なぜだろう」と思ったら、その原因・理由・しくみを知りたくなるのが自然な気持ちです。理科の学習では、このような好奇心や探究心を持って、自然に親しむことや、目的やねらいを持って観察・実験を行って調べることが大切にした学習を行っていきたいと思っています。すると見たことや調べたことから、たくさんのことがわかってくるようになります。これらを整理して、考えて、まとめることで、『考える力』が育っていきます。

【理科の学習】

疑問

調べる

整理する

考える

表現する

2、授業の進め方

観察や実験を中心に進めていきます。次のことを意識して授業を受けましょう。

- ・何を調べるために観察や実験を行うのか（目的）
- ・どのように調べるのか（方法）
- ・調べたことをまとめる（整理してまとめる）
- ・何がわかるかを考えてまとめる（思考）



3、授業で用意するもの

- ・教科書・ノート・筆記用具赤（鉛筆又は赤色だけのペンもあると便利）
- ・定規（定期試験の時は三角定規）・観察・実験ファイル（学校で購入）など

4、家庭学習の方法

- ・予習よりも復習に力を入れましょう。授業の復習は、その日のうちに、学習内容を確認していきましょう。わからないことは、調べたり質問したりしましょう。
- ・ワークを使って理解度を確認しましょう。できなかつたところは、再度、確認です。
- ・実験や観察で行ったことは、わかりやすくまとめておきましょう。
- ・テレビや新聞などで自然科学に関する番組や記事を見てみましょう。
- ・図書室から興味がある自然科学関係の本をどんどん借りましょう。

5、評価の方法

- ・実験や観察のレポート
- ・中間試験、期末試験の結果
- ・発表や提出物
- ・ノートの記述

などを総合的に判断します。



英語

1. 英語を学ぶ意味

「日本にいるのだから、英語なんて学ばなくても生きていける。」と思ったことはありませんか。週4時間もあのややこしい英語を勉強するなんて「めんどくさい」と思っている人もいるでしょう。でも英語を学ぶとこんないいことがあります。

- ①英語を知ると日本の良さがわかる。
- ②英語を学ぶことは他の国の文化も知ることができる。

結果、視野が広がり自信もついて人生が豊かになるのです。自動翻訳機など最近は素晴らしい機能のものも出回っていますが、やはり人間同士のコミュニケーションができればこんなにいいことはありません。ぜひ積極的に英語を楽しんでほしいと思います。

2. 授業の受け方

- ・毎回の授業の狙いを把握して、集中して取り組みましょう。
- ・授業に必要な持ち物を忘れることが内容にしましょう。
- ・先生の説明や友達の発表をよく聞き、積極的に取り組みましょう。
- ・ノートはていねいに書きましょう。
- ・わからないところは、その日のうちに解決するようにしましょう。

3. 家庭学習の方法

復習は必ず行いましょう。教科書の本文音読の練習をしましょう。覚えるまで何回も練習することが大切です。学校や家で音読練習し、家族に聞いてもらうのも良いと思います。また、ラジオ講座を聞くこともお勧めします。英語の歌や色々な表現を楽しく覚えられます。具体的には授業の中で説明しますが、次の例を参考にして学習習慣を身につけてください。

- 例)・単語を覚えるまで書いて練習する。
- ・教科書を音読する。
 - ・新しい単語の意味を調べておく。→余裕をもって授業を受けられる。
 - ・授業で学習した教科書のページの本文を写したり訳したりしておく。
 - ・英語の授業がない日、宿題をする必要がない日でもこれらのことを学習しておく。

4. 評価の方法

《コミュニケーションへの関心・意欲・態度》

コミュニケーションを行うことに関心を持ち、積極的に言語活動を行いコミュニケーションを図ろうとする。

《表現の能力》

英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。

《理解の能力》

外国語を聞いたり、読んだりして、話し手や書き手の意向や具体的な内容など相手が伝えようとすることを理解する。

《言語や文化についての知識・理解》

外国語を通して言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。

★各観点とも、授業中の様子、ペア活動の取り組み、発表、書き取りテスト、提出物、インタビューテスト、定期テスト、単元テスト、忘れ物の有無などで評価します。

音 楽

1、学習のねらい

「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して音楽を愛好する心情を育てるとともに音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う」ことをねらいとしています。

2 学習の内容

歌唱・・・歌い継がれてきた日本歌曲の独唱、混声三部合唱。

器楽・・・ソプラノ、アルトリコーダーでの独奏やアンサンブル、和楽器の演奏等。

創作・・・簡単なリズムを使っての曲作り、曲の雰囲気を図などで示す楽譜づくり等。

鑑賞・・・オーケストラによる楽曲、オペラ作品、日本の伝統音楽、世界各地の音楽等の鑑賞。

※合唱、アンサンブルと年間を通して「皆でつくる」活動が続きます。皆の気持ちをつないでいく教科です。

3 学習の評価

次の4つの観点について評価し、5段階の評定で表します。

- (1) 音楽への関心が高く、音楽活動に意欲的に取り組むことができる。
資料・・・学習道具の準備、授業中の様子、活動への姿勢。
- (2) 曲の雰囲気を感じ取り、表現を工夫している。
資料・・・授業中の演奏、実技テスト。
- (3) 豊かな響きで歌う。器楽の特性を生かして演奏する。
資料・・・授業中の演奏、実技テスト 定期テスト。
- (4) 音楽の美しさや特徴を感じ取り味わいながら聴くことができる。
資料・・・曲を聴いている時の様子、発表・感想 定期テスト。

4 授業での学び方

- (1)「聴く」・・・音に敏感に「耳」をとぎすまそう。
- (2) 目標・課題・学習の手順の把握
合唱、リコーダーアンサンブルと継続して行う内容がほとんどです。「すべきことをする」「集中して行う」ことが大切です。目標・課題・学習の手順を確認の上、活動しましょう。週1時間の授業とはいえ、実力を積み重ねることができます。
- (3) 皆で活動する時のマナー・ルールを意識して活動する。
「皆で活動する」ことが多い教科です。自分自身がきちんと活動することは、もとより他の人との関わりを意識できると、結果として、感動を誘う演奏となります。
- (4) 学習用具の準備
教科書2冊・ファイル・リコーダー・筆記用具と道具が多い教科です。物がないと授業自体、受けることができません。忘れ物のないように気を付けましょう。

5 家庭での学び方

定期テストの内容は、授業で集中してやっていたら、授業内で理解できることです。テスト範囲に関する教科書、プリント、ノートをきちんと見直し、思い起こしましょう。

美術

1、教科の特徴

- ・ 物をつくりだす仕事の多くは、美術で学習する知識や技術、発想力などが活かされています。画家だけではなく、車、服飾、建築、広告などのデザイナー、カメラマン、ショップの店員などは、特に配色や造形力、技法などの知識が必要です。それを選び、買う人たちのセンスが日本の文化を築いてきました。
 - ・ 自分の作品をつくるためには工夫したり考えたりしながら、手を動かすことになります。その試行錯誤は「生きる力」になります。
- ・ 美術の作品はたとえ同じものをみんなで描いたとしても、違う作品になり、その作品を通してお互いを理解しあうことができます。

2、授業の進め方・約束事

教室ではなく美術室に移動することがほとんどになりますが、チャイムと同時に着席しなければなりません。次の時間にはほかのクラスが入ってきますので時間になればあとかたづけもすべて終わらせて出ていかなければならないのです。1時間集中してその時間の目標を達成するようにしましょう。はじめはとまどうかもしれませんが、1時間のなかで絵具を出して着色して後片付けして・・・という流れに慣れてきます。

3、評価の方法

つぎの4観点に分けて評価し、これらを総合して5段階評定がつきます。

《関心・意欲・態度》

自分で考え、場合によっては資料や材料を探してくるなどの意欲的な姿勢がみられる。後片付けもしっかりできる。

《発想の力》

感じたことや考えたことなどをあらわすために、形や色彩を工夫することができる。

《創造的な技能》

新たな表現方法を工夫したり制作の順序を考え、きれいに制作することができる。

《鑑賞の能力》

自分や他の作品について、また生活や美術文化などについて理解や関心を深め、文や言葉で伝えることができる。



保健体育

1、教科の特徴

保健体育という教科は、保健分野と体育分野があります。保健分野では主に身体の仕組みや健康な心と身体を作るために必要な知識を身につけます。体育分野では、実際の運動を通して体力の向上を図るための手段や運動の特性を学びます。

二中は、体育館が狭いという状況もあり、運動する環境としては満足できる状況ではありません。そのような環境の中で、みんなが能率良く授業を行うために、整列などの集団行動をしっかりと行えることを望んでいます。それを、最低限のベースとして、各種目の中でお互いに教え合い、学び合う姿勢を身につけたり、各自の能力に応じたためあて学習を行ったり、自己の能力に応じた選択制の授業があります。

身体を動かすことや運動することは、何歳になっても心身の健康の保持・増進のためには必要なことであり、運動の行い方や自分の心身の健康について考えられる力をつけるために保健体育の授業を行います。

2、昨年度1年間の流れ ※今年度、変更する可能性もあります。

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
種目	体づくり運動 集団行動	陸上競技 (体育祭練習)	球技	水泳	柔道 ダンス	持久走		陸上競技 器械運動		球技	

※体育祭用ハチマキ、水泳、柔道に関しては事前に学校の方で道具の販売を行います。

3、評価の方法

関心 ・ 意欲 ・ 態度	<p>* 授業を行う上での最低限のルールと考えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を行う場所へ速やかに移動しているか。 ・ 授業を行う上での準備（服装、着こなし方など）ができているか。 ・ 健康、安全面での配慮（爪、頭髪）をしているか。 ・ 速やかに集合、整列を行っているか。 ・ 元気に声を出し、活動しているか。 ・ 準備運動を正しく行っているか。 ・ 準備を速やかに協力して行っているか。 ・ 授業の出席、見学状況も見ます。
思考 ・ 判断	<p>* 主に、学習カードから評価します。種目ごとに学習カードを配布しますが、体育学習ファイルを作ります。必ず、学習カードはファイルにとじておくようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間、めあて・目標を持って学習活動を行っているか。 ・ 1時間の反省から、次の時間のめあてを持つことができるか。 ・ 資料を上手に活用しているか。 ・ 学習の場の設定の工夫が見られるか。 ・ チームをまとめリーダーシップを取っているか。
運動 の 技能	<p>* 授業の中における各種目の到達度目標に対し、達成した度合いで評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団行動の行い方を学び、その習熟度を見ます。 ・ 種目に応じて、スキルテストや発表会、毎時間の記録によって評価を行います。
知識 ・ 理解	<p>* 主に学期末のペーパーテストが評価の中心となりますが、学習カード、各種目のルールの理解度も評価の対象となります。</p>



技術・家庭科（技術分野）

1 教科の特徴

技術では、A 材料と加工に関する技術、B エネルギー変換に関する技術、C 生物育成に関する技術、D 情報に関する技術の4つの領域について、3年間で学習します。

たとえば、A 材料と加工に関する技術では、木材を使用した作品の設計から製作までを行ない、木材の特徴や加工するためのいろいろな道具や機械の使い方を学んでいます。

また、B エネルギー変換に関する技術では、乾電池を使用した電気器具の製作通し、電気に関するいろいろな知識や技術を学びます。われわれの日常生活の中では、木材を材料とする製品や電気製品はたくさんあります。それらのものが壊れたり、故障したときに自分で簡単な修理できるものは直したり、あるいは必要なものを自分で作ったりして 自分の暮らしをより良くするためのヒントになれば良いと思っています。

2 学習の進め方

- ①基本的に、作業学習になります。作業についての約束事をきちんと守りましょう。
- ②道具の使用方法を理解し、正しく使用しましょう。
- ③安全に留意し、怪我がないように作業に取り組みましょう。

《ポイント》

作品作りは、手をかければかけるほど、思いのこもった物が完成します。面倒くさがらずに、細かいところまで丁寧に仕上げられるように頑張りましょう。世界に一つだけのオリジナル作品を目指しましょう。

3 評価の方法

技術・家庭科は「生活や技術への関心・意欲・態度」「生活を工夫し創造する能力」「生活の技術」「生活や技術についての知識・理解」の4つの観点で評価します。それぞれの観点は、次のような内容で評価します。

《生活や技術への関心・意欲・態度》

積極的に取り組む意欲や態度などを重視し、授業や作業・実習への取り組み状況、ノートや記録、プリント、作品の提出状況などを評価します。

《生活を工夫し創造する能力》

習得した知識や技術を積極的に活用し、生活を工夫したり創造したりする能力を評価します。

《生活の技術》

実際の生活で必要とされる基礎的な技術が、身についたかどうか評価します。

《生活や技術についての知識・理解》

実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的な知識を身に付けているか、生活と技術の関わりについて理解しているか。定期試験で確認したり、ノート・プリントの記入状況などを評価します。

技術・家庭科（家庭科分野）

1、教科の特徴

実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度が身につくようにします。将来の自分が自立した生活ができるように、衣・食・住の自分の身の回りのことが自分でできるように心掛けていきましょう。

2、学習の進め方

- ・積極的に取り組みましょう。
- ・話をしっかり聞いて、指示ある場合はそれに従いましょう。
- ・プリント類やノートをしっかり書きましょう。
- ・わからない時はそのままにしないで質問しましょう。
- ・作業に必要なものを忘れないようにしましょう。
- ・実習は安全に気をつけて事故のないようにしましょう。
- ・提出物の期限を守りましょう。

《ポイント》

わからなくなったら、積極的に質問をして、進度が遅れないようにしましょう。
進度が遅れたら、先生に申し出て、昼休みや放課後に作業を進めるようにしましょう。
黒板に書かれたことだけでなく、口頭で説明したことも積極的にノートにかきましょう。

3、授業で用意するもの

- ・教科書・ワークノート・調理実習時：エプロン、三角巾、フキン その他(授業で連絡)

4、家庭での学習

- ・家事の手伝いを進んでみましょう。

5、評価の方法

《生活や技術への関心・意欲・態度》

衣食住や家族の生活について関心を持ち、実習に積極的に取り組む意欲や態度を重視します。具体的には、授業の取り組み、作品やプリント、ワークなどの提出状況、忘れものなどを評価の対象にします。

《生活を工夫し創造する能力》

衣食住や家族の生活について見直し、課題を見つけ解決をめざして、家庭生活をよりよくするために工夫し創造する能力を評価します。自分の個性を出したり、より機能的に実習したりすることなど、評価の対象にします。

《生活の技能》

生活の自立に必要な衣食住や家族の生活に関する基礎的な技術を身についたかどうかを評価の対象にします。用具を安全に使って作業ができ、作品を美しく仕上げることも評価の対象とします。

《生活や技術についての知識・理解》

家族の基礎的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活の関する基礎的な知識を身につけているか評価します。定期テストで確認したり、手順を正確に理解して作業に取り組んでいるかなど、評価の対象にします。